

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-247468

(43)Date of publication of application : 03.09.1992

(51)Int.Cl.

G03G 15/00

G03G 21/00

(21)Application number : 03-054185

(71)Applicant : FUJI XEROX CO LTD

(22)Date of filing : 01.02.1991

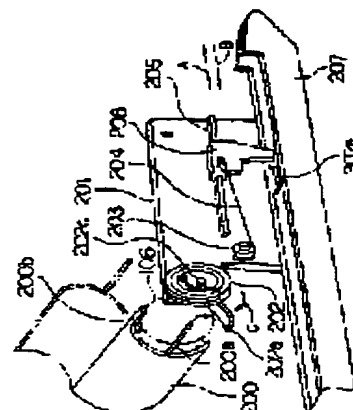
(72)Inventor : OKABE KOICHI
KOIZUMI HIROMITSU

(54) IMAGE FORMING DEVICE

(57)Abstract:

PURPOSE: To prevent the optical fatigue of an image carrier from occurring caused by external light, to obtain the excellent image quality of a print and to miniaturize the device by effectively utilizing a vacant space in the device in the image forming device having an opening and closing part.

CONSTITUTION: An engaging piece 200a projects from one end part of a protecting cover 200. An engaging piece 202a is provided on a pulley 202 and the cover 200 is detached from a photosensitive drum 106 in according as the pulley 202 is rotated in a direction shown by an arrow C. The pulley 202 is coupled to an locking piece 206 by a wire 204. Besides, a locking piece 207a is provided on a link member 207 corresponding to the locking piece 206. By engaging them, the attaching and detaching action of the cover 200 is executed by interlocking with the movement of the link member 207, that means, the opening and closing action of a front cover 123. Timing that the cover 200 is opened is set according to positional relation between the locking piece 207a and the locking piece 206.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-247468

(43) 公開日 平成4年(1992)9月3日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 3 G 15/00	1 0 1	7635-2H		
21/00	1 1 8	6605-2H		

審査請求 未請求 請求項の数2(全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平3-54185

(22) 出願日 平成3年(1991)2月1日

(71) 出願人 000005496

富士ゼロックス株式会社

東京都港区赤坂三丁目3番5号

(72) 発明者 岡部 功一

埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼロックス株式会社岩槻事業所内

(72) 発明者 小泉 弘光

埼玉県岩槻市府内3丁目7番1号 富士ゼロックス株式会社岩槻事業所内

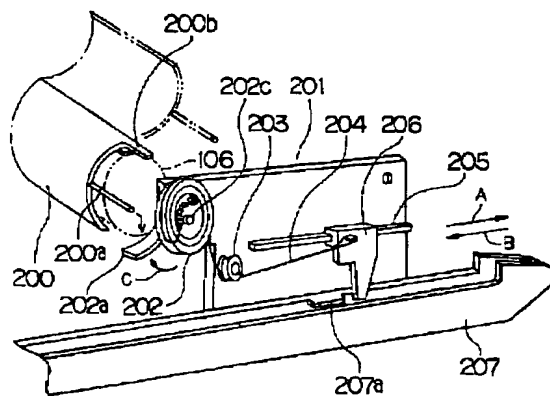
(74) 代理人 弁理士 山内 梅雄

(54) 【発明の名称】 画像形成装置

(57) 【要約】

【目的】 開閉部を有する画像形成装置において、外部光による像担持体の光疲労等を防止し、良好なプリント画質を得、かつ装置内の空きスペースを有効に利用して小型化を図る。

【構成】 保護カバー200の一端部には係合片200aが突出している。プーリ202には係合片202aが設けられ、プーリ202の図に示す矢印C方向の回転に伴い保護カバー200が感光体ドラム106から離脱される。プーリ202はワイヤ204により係止片206に連結されている。リンク部材207には係止片206に対応させて係止部207aが設けられており、これらが係合することによりリンク部材207の移動、すなわち前カバー123の開閉動作に連動して保護カバー200の接離動作がなされる。保護カバー200が開くタイミングは係止部207aと係止片206との位置関係により設定される。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 像担持体が保持されるとともに、この像担持体に対して接離可能な像担持体保護カバーを有する装置本体と、この装置本体に対して開閉可能に設けられた開閉部と、この開閉部の開閉動作に連動して前記像担持体保護カバーを接離動作させる保護カバー駆動機構と、前記開閉部が所定の値以上開放されたとき、前記像担持体保護カバーが前記像担持体を完全に覆うよう前記保護カバー駆動機構の作動を調整する保護カバー駆動機構調整手段とを具備したことを特徴とする画像形成装置。

【請求項2】 保護カバー駆動機構は、前記像担持体保護カバーを前記像担持体を覆う方向に弾性的に付勢する弾性体と、前記像担持体保護カバーに設けられた第1の係合片と、この第1の係合片に対応して第2の係合片を有し、その回動に伴い前記像担持体保護カバーの接離動作を行うプーリと、このプーリにワイヤを介して弾性的に連結されるとともに前記開閉部の開閉方向に沿って移動可能に設けられ、その移動に伴い前記プーリを回動させる係止片と、前記開閉部の開閉方向に沿って移動可能に設けられるとともに前記係止片に対応して係止部を有し、前記開閉部の開閉動作に連動して前記係止片を移動させるリンク部材とからなり、前記リンク部材の係止部と前記係止片との位置関係を、前記像担持体保護カバーが前記像担持体を完全に覆うタイミングに合わせて設定してなる請求項1記載の画像形成装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明はたとえば複写機やプリンタ等のように被転写部材へ画像形成を行う画像形成装置に係り、特に開閉部の開放時に像担持体（感光体）を外部光等から保護するための像担持体保護カバーを有する画像形成装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、画像形成装置、たとえばレーザービームプリンタは図3に表すように構成されている。

【0003】 このレーザービームプリンタ11はレーザー走査装置12を備えており、このレーザー走査装置12からレーザービーム13を出力する。

【0004】 レーザ走査装置12から出力されたレーザービーム13は、感光体ドラム14の所定の露光位置14aをその軸方向すなわち主走査方向に繰り返し走査する。この露光位置14aよりもわずかに手前には感光体ドラム14に対向してチャージコロトロン15が配置されており、感光体ドラム14の表面を一律に帯電させるようになっている。この帯電後の感光体ドラム14にレーザービーム13が照射されることで、ドラム表面には画像情報に対応した静電潜像が形成される。この静電潜像は、露光位置14aよりも下流側のドラム表面で現像ロール16により現像される。この現像ロール16の現像

2

によって形成されたトナー像は、感光体ドラム14の回転によってトランスファコロトロン17に対向する位置まで移動し、ここで記録用紙（普通紙）に静電的に転写されることになる。

【0005】 記録用紙は、このレーザービームプリンタ11の下部に着脱自在に配置されたカセットトレイ18に積層されるようになっている。カセットトレイ18に最上層に配置された記録用紙は、半月状の形状をした半月ロール19によってトレイ外に送り出される。送り出された記録用紙は破線で示した経路を搬送ロール20により搬送され、レジストロール21の先端に到達した時点でその進行を一旦停止させる。この後、感光体ドラム14の回転位置と同期をとって図示しない電磁クラッチがレジストロール21の回転を開始させ、これにより記録用紙が一定した速度でかつ安定して搬送を開始される。この記録用紙は所望のタイミングで感光体ドラム14とトランスファコロトロン17との間を通過し、この通過の際にトナー像が転写される。転写の行われた記録用紙は、トランスファコロトロン25の下流側に配置された図示しない除電針によってその背面から除電され、ドラム表面から剥離される。剥離された記録用紙は、その緊張を解くために所定の長さの搬送路22上を搬送された後、ヒートロール23とプレッシャロール24の対かなる定着装置に運ばれ、トナー像が用紙面に熟定着される。

【0006】 定着装置の出口側には定着後の記録用紙26の搬送路を切り換えるための切換弁25が設けられ、この切換弁25の切換作業によって、定着後の記録用紙はそのまま直進して排出ロール26により第1の排出方向に排出されるか、装置内を逆コ字状に搬送されて排出ロール27により第1の排出方向とほぼ逆方向の第2の排出方向にレーザービームプリンタ11の上部から排出される。なお、記録用紙に転写されなかったトナー像は、トランスファコロトロン17のさらに下流側に配置されたクリーニング装置28によってドラム表面から除去される。

【0007】 ところで、このようなレーザービームプリンタにおいて、感光体ドラム14は画像形成の中心部をなすもので、この感光体ドラム14に外光が当たって光疲労を生じたり、外部から異物が入って損傷を受けるとプリント画質が大きく低下する。このような弊害を防止するために、従来、種々の遮光部材が設けられている。

【0008】 たとえば、特開昭59-58447号公報には、外装カバーの開閉に連動して感光体ドラム遮光カバーを開閉させる機構を有するプリンタが開示されている。また、特開昭57-200052号公報には、装置本体が上部筐体と下部筐体とに分割され、下部筐体側に遮光部材の開閉機構を有するプリンタが開示されている。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これら従来の遮光部材を用いたプリンタでは、両者とも遮光部材の開閉に複雑なリンク機構を用いているため、省スペースという観点から問題があり、装置が大型化していた。

【0010】また、特開昭59-58447号公報の構造では、外装カバーを中途半端に閉じた状態で長時間放っておくと、装置本体内に光が差し込んで閉じきっていない遮光部材の隙間から感光体ドラム表面に光が当たり、その結果感光ドラム表面が部分的に著しく劣化して部分的な画像の抜けなどプリント画質に悪影響を及ぼす。また、この隙間から装置内に異物が入り込むと感光体ドラム表面に傷を付けて、やはりプリント画質に悪影響を与えてしまうという問題があった。

【0011】本発明は係る問題点に鑑みてなされたもので、その目的は、像担持体の外部光による光疲労を確実に防止するとともに像担持体表面に異物が侵入して表面に傷が付くのを防止し、良好なプリント画質が得られ、かつ装置内の空きスペースを有効に利用して小型化を図ることができる画像形成装置を提供することにある。

【0012】

【課題を解決するための手段】本発明による画像形成装置は、像担持体が保持されるとともに、この像担持体に対して接離可能な像担持体保護カバーを有する装置本体と、この装置本体に対して開閉可能に設けられた開閉部と、この開閉部の開閉動作に連動して前記像担持体保護カバーを接離動作させる保護カバー駆動機構と、前記開閉部が所定の値以上開放されたとき、前記像担持体保護カバーが前記像担持体を完全に覆うよう前記保護カバー駆動機構の作動を調整する保護カバー駆動機構調整手段とを具備している。

【0013】このような構成により本発明の画像形成装置では、開閉部が所定の値以上開放されると、像担持体保護カバーが像担持体を完全に覆ってしまうので、像担持体の外部光による光疲労を確実に防止するとともに、像担持体表面に異物が侵入して表面に傷が付くのを防止でき、良好なプリント画質を得ることができる。

【0014】また、本発明の画像形成装置では、保護カバー駆動機構を、前記像担持体保護カバーを前記像担持体を覆う方向に弾性的に付勢する弾性体と、前記像担持体保護カバーに設けられた第1の係合片と、この第1の係合片に対応して第2の係合片を有し、その回動に伴い前記像担持体保護カバーの接離動作を行うプーリと、このプーリにワイヤを介して弾性的に連結されるとともに前記開閉部の開閉方向に沿って移動可能に設けられ、その移動に伴い前記プーリを回動させる係止片と、前記開閉部の開閉方向に沿って移動可能に設けられるとともに前記係止片に対応して係止部を有し、前記開閉部の開閉動作に連動して前記係止片を移動させるリンク部材とにより構成し、前記リンク部材の係止部と前記係止片との

位置関係を、前記像担持体保護カバーが前記像担持体を完全に覆うタイミングに合わせて設定するものである。

【0015】このような構成であれば、装置内の空きスペースに保護カバー駆動機構を配設することが容易になり、スペースの有効利用を図ることができる。

【0016】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。

【0017】図3は本発明の一実施例に係るレーザビームプリンタの概略構成を表したものである。なお、図1はこのレーザビームプリンタを側面から見たもので、図の左方がレーザビームプリンタの前面になる。

【0018】このレーザビームプリンタ100は、レーザ走査装置101を備えている。レーザ走査装置101には、画信号に応じてレーザ光を変調して出力する図示しない半導体レーザが配置されている。この半導体レーザから射出されたレーザビームは破線で示すようにポリゴンミラー102に入射し、この回転に応じて偏向される。偏向されたレーザビームはfθレンズ103を通過した後、ミラー104、105により進行方向を変えられ、このレーザ走査装置101から出力される。

【0019】レーザ走査装置101から出力されたレーザビームの延長上には低速で矢印の方向へ回転する感光体ドラム106が配置されている。レーザ走査装置101から出力されたレーザビームは、この感光体ドラム106の所定の露光位置107をその軸方向すなわち主走査方向に繰り返し走査する。この露光位置107よりもわずかに手前には感光体ドラム106に対向してチャージコロトロン108が配置されており、感光体ドラム106の表面を一様に帯電させるようになっている。この帯電後の感光体ドラム106にレーザビームが照射されることで、ドラム表面には画像情報に対応した静電潜像が形成される。この静電潜像は、露光位置よりも下流側のドラム表面で現像装置109によって現像される。この現像装置109内には、トナーを磁気的に穂立ちさせて静電潜像の現像を行うための現像ロール110や、カートリッジ内のトナーを現像ロール110に供給するためのトナー供給機構111等の部品が配置されている。現像ロール110には所定の現像バイアスが印加されている。

【0020】現像装置109の現像によって形成されたトナー像は、感光体ドラム106の回転によってトランスファコロトロン112に対向する位置まで移動し、ここで記録用紙（普通紙）に静電的に転写されることになる。なお、本実施例で使用されるチャージコロトロン108およびトランスファコロトロン112は単線のコロトロンワイヤをシールド部材で覆った空間に張り渡し、その一端に電圧印加端子を設けた構造となっている。

【0021】次に、記録用紙の搬送経路について簡単に説明する。図示しない記録用紙は、このレーザビームプ

5

リント100の下部に着脱自在に配置された用紙給紙装置113内に前面から挿入されたカセットトレイ114に積層されるようになっている。カセットトレイ114に最上層に配置された記録用紙は、半月状の形状をした半月ロール115によってトレイ114外に送り出される。なお、半月ロール115の代りにリタードロール等の他の手段を用いてもよい。

【0022】送り出された記録用紙は破線で示したように経路を搬送ロール128によって進行し、レジストロール129の先端に到達した時点でその進行を一旦停止させる。この後、感光体ドラム106の回転位置と同期をとって図示しない電磁クラッチがレジストロール129の回転を開始し、これにより記録用紙が一定した速度でかつ安定して搬送される。このようにして、記録用紙は所望のタイミングで感光体ドラム106とトランスファコロトロン112との間を通過する。この通過の時点だけ、トランスファコロトロン112は放電を行い、これによって感光体ドラム106上のトナー像が静電的にトランスファコロトロン112方向に吸引され、記録用紙上にトナー像の転写が行われる。転写の行われた記録用紙は、トランスファコロトロン112の下流側に配置された図示しない除電針によってその背面から除電され、ドラム表面から剥離される。剥離された記録用紙は、その緊張を解くために所定の長さの搬送路上を搬送された後、ヒートロール116とプレッシャロール117との対からなる定着装置118に運ばれる。定着装置118では記録用紙が所定幅でニップしているヒートロール116とプレッシャロール117との間を通過する。このとき、記録用紙におけるトナー像の転写された側がヒートロール116側となり、プレッシャロール117は記録用紙をヒートロール116に押し付けて効率的な熱伝達を可能にする。ヒートロール116は高温の一定した温度に制御されている。この状態で、記録用紙上のトナー像は用紙面に熱定着される。

【0023】定着装置118の出口側には出口ロール119が用意されており、この出口ロール119には搬送された記録用紙はレーザビームプリンタ100の上部へ排出される。記録用紙は前述の経路を経るために記録面が下になって排出され、1ページづつ順に印刷したものを排出された順序のままステープラで閉じることができる。

【0024】一方、記録用紙に転写されなかったトナー像は、トランスファコロトロン112のさらに下流側に配置されたクリーニング装置120によってドラム表面から除去される。クリーニング装置120には、ドラム表面からトナーを削り取るためのブレード120bやトナー漏れを防止するためのフィルム120aが配置されている。

【0025】本実施例のレーザビームプリンタ100においては、感光体ドラム106とクリーニング装置12

6

0とチャージコロトロン108と現像装置109とがEPカートリッジ121として一体で構成されている。また本実施例のレーザビームプリンタ100ではヒンジ122を中心に開閉する前カバー123を有している。この前カバー123を開くことにより、使用者は用紙詰まりの除去や、EPカートリッジ121やトランスファコロトロン112の交換を極めて容易に行うことができる。また本実施例のレーザビームプリンタ100では定着装置118の着脱も使用者が容易に行えるように構成されている。

【0026】レーザ走査装置101の後方には低圧電源と高圧電源とからなる電源部124が配置されており、各構成部品へ必要な電力を供給している。電源部124の後方には制御装置125が配置されており、レーザビームプリンタ100の電氣的制御を行っている。電源部124と制御装置125の上方には画像情報処理装置126が配置され、コンピュータ等から送られてきた画像情報をレーザビームプリンタ100の言語に翻訳して制御装置125へ送るようになっている。このように本実施例のレーザビームプリンタ100では、いわゆる機械的構成部品を装置の前方に配置し、いわゆる電氣的構成部品127を後方に配置している。

【0027】さらに、このレーザビームプリンタ100には、感光体ドラム106の前面のほぼ上半分を覆うように保護カバー200が配設され、これにより外光、異物等から感光体ドラム106を保護するようになっている。

【0028】図1はこの保護カバー200の開閉を行う保護カバー駆動機構の構成を表し、また図2は保護カバー200の端部の支持構造を表している。

【0029】保護カバー200の長手方向に沿った両端部にはそれぞれ棒状の支持部200bが設けられており、この支持部200bが前記EPカートリッジ121の筐体208に形成された溝208aに回動自在に支持されている。保護カバー200の支持部200bには一端部が筐体208側に支持されたスプリング209が巻回され、かつこのスプリング209の他端が保護カバー200側の係止部200cに支持されており、この保護カバー200を感光体ドラム106を覆う方向に弾力的に付勢している。この保護カバー200の一端部には第1の係合片としての棒状の係合片200aが突出している。装置本体側の筐体201にはブーリ202がその軸部202cを中心に回動自在に支持されている。このブーリ202には保護カバー200側の係合片200aに対応させて第2の係合片としての係合片202aが取り付けられている。この係合片202aは湾曲形成されており、係合片200aに係合してブーリ202の図に示す矢印C方向（時計回り方向）の回転に伴い保護カバー200をスプリング209の弾力性に抗して感光体ドラム106から離脱させるようになっている。

7

【0030】プーリ202はアイドラプーリ203を介してワイヤ204により係止片206に連結されている。図6はプーリ203の支持構造を拡大して表すもので、このプーリ203はスプリング212により図において反時計回り方向に弾性的に付勢されている。またワイヤ204は一端がこのプーリ203に取り付けられたワイヤ緩み防止用のスプリング211の他端部に連結されており、プーリ202はワイヤ204が図の矢印D方向に引っ張られることによりスプリング212の弾性力に抗して図において時計回り方向に回転するようになっている。

【0031】係止片206の下部にはリンク部材207が配設されている。このリンク部材207の一端部は、図4に表すように前カパー123の中間部においてヒンジ210により回転可能に支持されており、前カパー123の開閉に連動して前後（図1のA、B方向）に移動可能となっている。リンク部材207には係止片206に対応させて係止部207aが設けられている。

【0032】すなわち、この保護カパー駆動機構では、リンク部材207は前カパー123の開動作に連動して図1において矢印A方向に移動する。このときリンク部材207の係止部207aが係止片206を矢印A方向に動かしてワイヤ204を引っ張る。このワイヤ204が引っ張られることにより、プーリ202が211、212の弾性力に抗して時計回り方向（矢印C方向）に回転し、この回転に伴いプーリ202の係合部202aが保護カパー200の係合部200aを引っ掛け、これにより保護カパー200をスプリング209の弾性力に抗して反時計回り方向に回転させる。その結果保護カパー200は図1に二点鎖線で示すように開く。

【0033】一方、前カパー123を開放させると、リンク部材207が図1において矢印B方向に移動し、一定のタイミングで係止部207aと係止片206との係止状態が解除される。係止部207aと係止片206との係止状態が解除されると、プーリ202がスプリング211、212の弾性力により初期位置に復帰するとともに、プーリ202の係合部202aと保護カパー200の係合部200aとの係合状態が解除され、これにより保護カパー200がスプリング209の弾性力により直ちに初期位置に復帰して閉じる。なお、この保護カパー200が閉じた状態では、図3に示すように保護カパー200の先端部が現像装置109の筐体109に当接し、これにより感光体ドラム106と保護カパー200との間にわずかな隙間を保持している。

【0034】図4は本実施例のレーザビームプリンタ100の前カパー123を開いたときの保護カパー200の状態を表す図、一方、図5は同前カパー123閉じたときの保護カパー200の状態を表す図である。図4では前カパー123は鉛直線（図5に示す閉の位置）からの角度（開放角）が θ （たとえば 10° ）となっており、

8

開放角がこの θ 以上では保護カパー200は感光体ドラム106の表面を完全に覆っている。したがって、前カパー123をこれ以上開放しても外部から感光体ドラム106の表面へ光等が直接進入することはない。図4の状態から前カパー123をさらに閉め、 $\theta < 10^\circ$ になると、保護カパー駆動機構が動作を開始し、 $\theta = 0^\circ$ となる直前に感光体ドラム106の表面を露出させる。なお、前カパー123の開放角が θ より小さくなると、保護カパー200が開き始めるが他の各要素の構成との関係から感光体ドラム106の表面に光が直接当たることはない。

【0035】上記保護カパー123の開放角 θ は任意であり、他の構成要素との位置関係から設定される。この開放角 θ はリンク部材207の係止部207aと係止片206との位置関係により調節できる。したがって前カパー123をわずかに開けた状態でも保護カパー200が感光体ドラム106を完全に覆うように構成することも可能となる。

【0036】このように本実施例のレーザビームプリンタでは、前カパー123を一定の角度開放させた状態であっても、感光体ドラム106は保護カパー200により完全に覆われているため、前カパー123を完全に閉じることなく長時間放置した場合でも、感光体ドラム106の表面に外部光や異物が進入することなく、プリント画質の劣化を防止できる。

【0037】また、保護カパー駆動機構をプーリ202およびワイヤ204を用いて構成し、保護カパー200に対してワイヤ204により荷重をかけるようにしたので、このワイヤ204を三次元的に張ることにより、装置内の空きスペースを有効に活用することができる。またワイヤ204の長さおよびプーリ202の径を変えることにより、開放角 θ および荷重の微調整も可能となる。なお、ワイヤ204にアラミド繊維を用いるとさらに高い信頼性が得られる。

【0038】以上実施例を挙げて本発明を説明したが、本発明は上記実施例に限定するものではなく、その要旨を変更しない範囲で種々変形可能である。たとえば、上記実施例では、プーリ202の初期位置への復帰機構を図6に表すようにスプリング212を用いて構成したが、このスプリング212の代わりに図7に表すように渦巻き状のスプリング213を使用するようにしてもよい。また、上記実施例においては、保護カパー200が感光体ドラム106の全面の上半分を覆う構造としたが、その保護範囲は任意であり、たとえば感光体ドラム106の前半分全面を覆う構造としてもよい。

【0039】

【発明の効果】以上説明したように請求項1記載の画像形成装置によれば、開閉部が所定の値以上開放されたときに像担持体保護カパーが像担持体を完全に覆うように構成したので、開閉部を開放させたまま長時間放置した

9

場合でも、像担持体の外部光による光疲労や異物による傷の発生を確実に防止でき、プリント画質の劣化を防止できる。

【0040】また、請求項2記載の画像形成装置によれば、保護カバー駆動機構をワイヤおよびプーリにより構成したので、装置内の空きスペースを有効に利用でき、小型かつ信頼性に優れ、特に個人向けに適した画像形成装置を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係るレーザビームプリンタ 10の保護カバー駆動機構を表す分解斜視図である。

【図2】図1の保護カバー駆動機構における保護カバー支持部の構成を表す斜視図である。

【図3】本発明の一実施例に係るレーザビームプリンタの全体構成を表す縦断面図である。

【図4】図1の保護カバー駆動機構の前カバーが開放されたときの状態を表す概略構成図である。

【図5】図1の保護カバー駆動機構の前カバーが閉じた

10

ときの状態を表す概略構成図である。

【図6】図1の保護カバー駆動機構のプーリ部周辺の構造を表す側面図である。

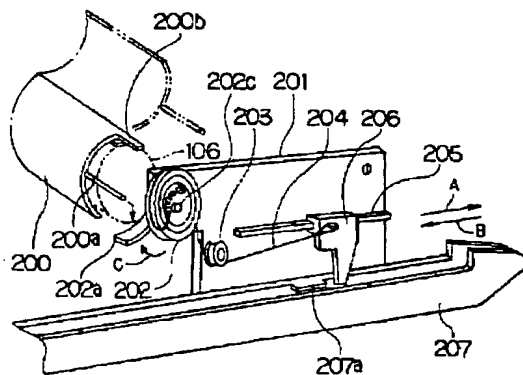
【図7】本発明の他の実施例に係る保護カバー駆動機構のプーリ部周辺の構造を表す側面図である。

【図8】従来のレーザビームプリンタの概略構成を表す図である。

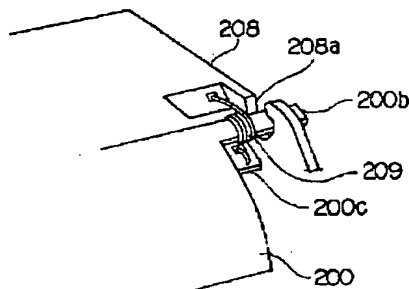
【符号の説明】

- 100 レーザビームプリンタ
- 106 感光体ドラム（像担持体）
- 200 保護カバー（像担持体保護カバー）
- 202 プーリ
- 202a 係合部（第1の係合部）
- 204 ワイヤ
- 206 係止片
- 207 リンク部材
- 207a 係止部

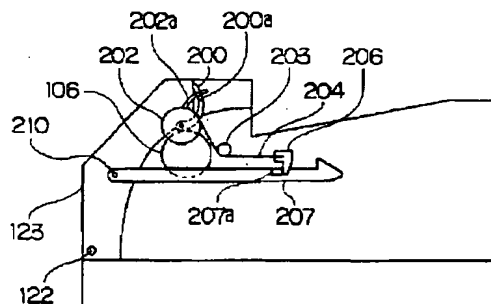
【図1】



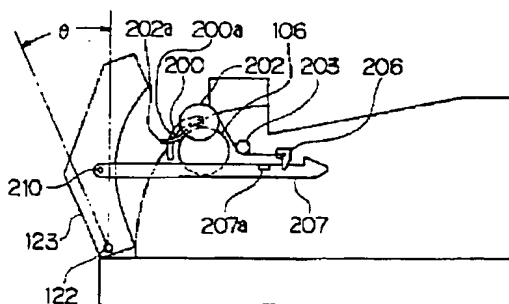
【図2】



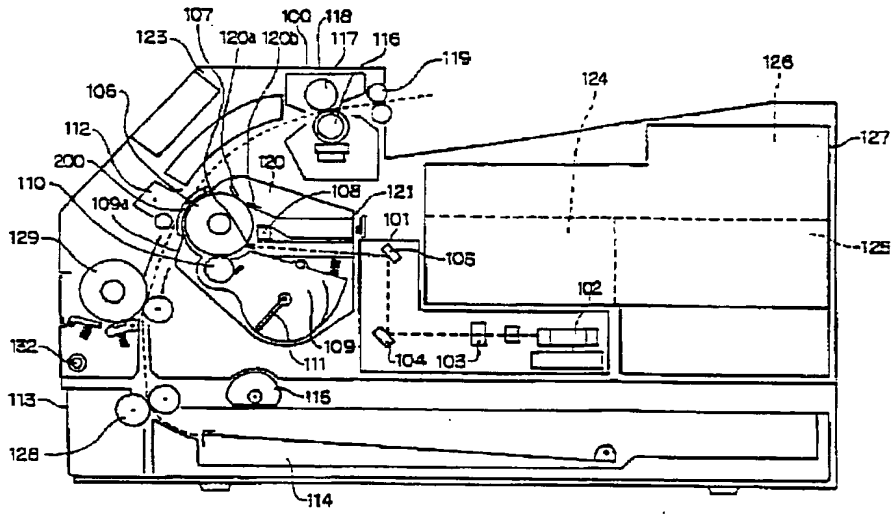
【図3】



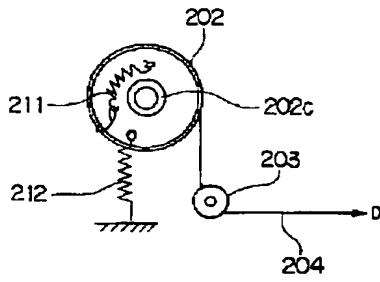
【図4】



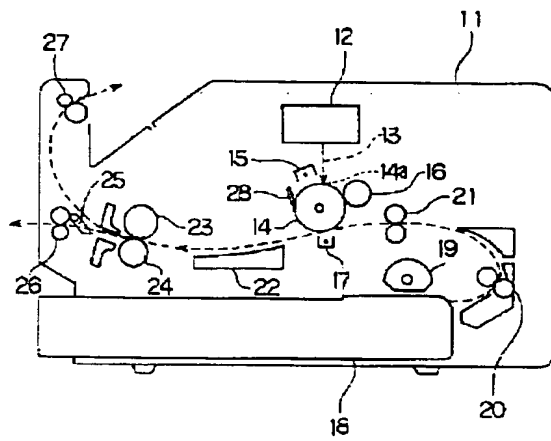
【図3】



【図6】



【図8】



【図7】

